

名古屋市立大学
蝶ヶ岳ボランティア診療所
2021年度報告書



診療班の未来像 9

蝶ヶ岳ボランティア診療班 代表 酒々井眞澄(すずいますみ)

寄稿の機会を与えていただいた診療班関係者に感謝致します。本活動は学内外の多くの方々のサポートにより成り立っています。

3月6日のウェブ幹事会では2022年度の予算案が承認されました。2019年暮れに始まった新型コロナウイルス感染症の拡大から2年が過ぎましたが、2021年も診療所の開所を断念しました。診療所の場所はヒュッテ宿泊を予定している登山者の検温スペース(入り口に近く便利)に活用していただいております。本年もシーズン中はヒュッテスタッフからの医療に関するメール相談を受け付ける体制を取りました。2年間のうちに蝶ヶ岳ヒュッテの内部の様子が変わり、診療所の再開時は旧更衣室のスペースで活動を行うことになると考えています。

診療所までの移動と診療所での活動では班員の安全を最優先すること(コロナ禍での移動・宿泊の手引きなど)、診療所での発熱者、感染が疑われる状況での新たな対応(発熱者対応の指針など)、PPEの準備や感染者の動線の工夫など、診療所での活動を経験していない学生班員への指導や運営の引き継ぎ、ゴミ対策など多くの課題を抽出して、適宜検討しています。困難な状況であっても、私たちはウェブ運営会議、勉強会、登山医学会への参加(情報収集)、猪熊隆之氏(ヤマテン代表取締役、中央大学山岳部監督)の教育講演「山岳気象」などにより再開をみすえて検討し、関連する知識を深め、診療班活動(学生の部活動を含む)を継続しています。

2022年の活動についても、オミクロン株等の感染状況を引き続き注視して適切に対応していく必要があります。安全な活動、練習登山を含む準備、診療活動の有無や規模、方法(対面診療、遠隔医療、電話・ネット相談など)についての課題があります。私たちの活動は社会的にも有意義であることはご承知のとおりです。困難な状況が続いていますが、皆様には引き続きご理解とご協力を何卒よろしくお願い致します。

蝶ヶ岳診療班 アフターコロナ

蝶ヶ岳ボランティア診療班 診療部長 薊隆文(あざみたかふみ)

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班にかかわる皆様、日頃から温かいご支援ありがとうございます。今年度も誠に残念ながら開所前にはコロナは収束せず、早々に診療所の閉鎖を決定いたしました。一方では東京オリンピックは開催され、人数は制限されてはいますが多くのスポーツイベントでもすでに観戦も可能になってきました。また、これを書いているのは10月初旬時点ですが、ワクチン接種率の増大にもよるものでしょう、ようやく感染も下火になってきました。我々も来年度に向けて方針を固め、準備が必要な時期に入っていると考えています。

去年は、当大学だけでなくほとんどの山岳診療所が閉鎖となっていました。今年度はいくつかの山岳診療所では医師による開所にこぎつけたところもあり、中には学生の参加をみとめたところもありました。開所にこぎつけられた要因は、診療所側の準備、ヒュッテ側の準備、そして登山者への啓蒙活動に大別されると思います。その中で、各診療所が行ってきた活動では、抗原検査キット、非接触型体温計の購入、スタッフの2週間前からの健康チェックがありました。ヒュッテ側の対策としては、人数制限や食堂でのパーティション設置に加え、隔離用個室を準備したところもありました。学生の参加を許可した大学では、登山前後でPCR検査を行うことを条件にしていました。また、山頂でコロナを発症、あるいは発症疑いとなった事例もあったようですが、重症化することなく対処できていたようです。今後は、これらの診療所の方針や、すでに行われている多くのスポーツのコロナ対策も参考にしつつ、蝶ヶ岳診療所の新しい活動ガイドラインを策定することが必要でしょう。

登山は広い空間と新鮮な空気は感染には防御として働きますが、ひとたび山頂についてからは、密な環境、高地であるが故の大きな呼吸などは懸念因子となります。残念ながら、これまでのような自由な登山はしばらく戻ってこないでしょう。その中で新しいスタンダードを遵守しながら活動が続けられることができればよいと思います。この2年間、今、何ができるか、何をすべきか、を考え、酒々井代表、坪井運営委員長をはじめとするスタッフも学生とともに何とかしてモチベーションを保っています。

今後も、これまでと変わらぬご支援・ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所

2021年度報告書

目次

蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に関する合意書	4
蝶ヶ岳ボランティア診療班規約	5
名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班に参加ご希望の皆様(新規参加)	7
危機管理体制について	10
台風発生時の対応マニュアル	13
参加者および同伴者の宿泊経費	16
運営組織	17
参加・協力学生	18
診療班活動概要・運営上の主な変更点・診療班活動記録	19
診療所でのネットワーク障害とその対応	20
会計収支決算報告	22
蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ(2021年バージョン)	23
処方および薬剤等の準備(調剤)時の注意事項	26
酸素ボンベについて	28
第41回日本登山医学会学術集会への参加報告	31
診療活動の取材に関する合意書	32
診療所での急なメディア取材申し込みへの対応フローチャート	33
短時間での一時閉所・完全閉所チェックリスト	34
寄付者御芳名	37
関連記事(信濃毎日新聞)	38
新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について	40

名古屋市立大学

蝶ヶ岳ボランティア診療所

設立に関する合意書

名古屋市立大学蝶ヶ岳診療班は名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に際して蝶ヶ岳ヒュッテ設置者と以下の項目に関する合意を得たことを確認し、双方の理解と協力の下に診療所を円滑に運営し、蝶ヶ岳山域の登山者の安全確保に寄与することに努める。

第1条 設置場所は長野県南安曇郡堀金村、蝶ヶ岳ヒュッテ(以下ヒュッテと略)内とする。

第2条 設置主体は名古屋市立大学の学生、およびその教職員を中心とする非営利の任意団体(名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班、以下診療班と略)である。ヒュッテはその運営を援助する。

第3条 診療所名称は名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所とする。診療所長は運営委員会で決定し、学内に公示する。

第4条 開設期間は7月20日頃～8月20日頃までの約1ヵ月間を原則とする。具体的な開設期間は各年度開設前に診療班がヒュッテに通知し合意をえる。

第5条 ヒュッテは診療所の運営に対して以下の支援を行なう。(1)各年度に必要な診療機器、薬品の荷上げはヒュッテが責任を持って行う。その量、回数は診療班とヒュッテとの事前協議によって定める。(2)診療所の運営に必要な水、電気、ガス等はヒュッテ側が無料で供給する。(3)診療班員のヒュッテ滞在のための居住区域と寝具等をヒュッテは用意し、その滞在費(3食付き宿泊費)は1人1泊1000円とする。(4)ヒュッテは、診療活動を円滑に行えるように、国立公園管理区域内の道路および駐車場が利用できるよう配慮、準備する。

第6条 診療所活動は名古屋市立大学医学部の教育・研究と関連したものであり、診療所班員は蝶ヶ岳山域において、山岳遭難救助活動に参加する義務を負わない。

第7条 診療班が救急搬送の必要を認めた場合はヒュッテが搬送および、搬送支援の連絡任務を負う。搬送および、搬送に関わる費用負担には診療所は一切関知しない。

第8条 診療班員は診療所設置場所が国立公園内であることを認識し、環境保全に努め医療廃棄物の処理はヒュッテの指示に従う。

第9条 診療班は会計を決定し、診療班の収入と支出の管理を行う。

第10条 診療班員はヒュッテの運営方針を尊重し、診療所区域の清掃に責任を持つ。

第11条 診療行為に起因する争議にはヒュッテ側は一切責任を負わない。

第12条 診療班の明らかな過失によるヒュッテの器物の損壊があるときは、診療班はヒュッテに対して弁償の責任を負う。

第13条 診療班は診療所の運営が困難となった場合には、その旨をヒュッテ側に通知し、運営を中止できる。その場合は次期診療所開設日の1年以上前に行わなくてはならない。

第14条 ヒュッテが診療所の開設の必要を認めない場合、または診療班以外の団体に運営を委嘱する場合、その旨を診療班に通知し、診療所を閉鎖できる。その場合は次期診療所開設日の1年以上前に行わなくてはならない。

第15条 合意書の事項に変更の必要を認めた場合は診療班代表、診療所長またはヒュッテ代表が発議し、協議を行って内容の変更を加えることができる。

附則 この合意書は1998年4月1日から発効する。

1998年3月31日

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所所長
医学部名誉教授 武内俊彦

名古屋市立大学医学部
蝶ヶ岳ボランティア診療班代表
医学部教授 太田伸生

蝶ヶ岳ヒュッテ／大滝山荘 代表 神谷圭子

名古屋市立大学

蝶ヶ岳ボランティア診療班

規約

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班(以下「診療班」という。)は、1997 年度医学部教授会の承認を受け、1998 年度より北アルプスの中部山岳国立公園蝶ヶ岳にある蝶ヶ岳ヒュッテ内に「名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳ボランティア診療所」を設置することを決定した。2000 年度に、学生組織はクラブ活動として組織化されて、全学部の活動となった。学生組織は本活動を支える全学的な組織であることから、これを契機に同診療所を「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所」と名称変更した。診療班は、本規約により、診療班を運営し、また、診療所を運営し、また、その他必要な事項についてもこの規約の方針に従う。

目次

第 1 章 総則(第 1 条—第 3 条)

第 2 章 組織(第 4 条—第 11 条)

第 3 章 管理業務(第 12 条—第 15 条)

第 4 章 雑則(第 16 条・第 17 条)

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 診療班は、人命救助や健康管理の重要性を認識し、ボランティア医療活動を通じた社会貢献を目指すことを目的とする。また、高地医学、遠隔地医療及び環境保全の研究・教育の場としての意義も有する。

(事業)

第 2 条 診療班は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 登山者の疾病治療、高山病予防活動その他治療・予防活動
- (2) 蝶ヶ岳近辺の環境保全
- (3) 前 2 号に掲げる事項に係る研究・教育
- (4) その他医療活動、社会貢献、研究・教育に関する事業

(構成)

第 3 条 診療班は、名古屋市立大学の学生、教職員及び卒業生の有志で構成される。(以下、診療班を構成する者を班員という)

2 班員以外の者及び夏山参加者であっても、診療班員による推薦の後、運営委員会での承認を経て班員として登録できる。この登録は、本人の意志により解除することができる。

3 前項に該当する者の入退会は、運営委員会で記録し、これを毎年度確認するものとする。この場合において、その者との連絡が途絶して 2 年が経過した場合、あるいは運営委員会の協議により、診療班は、その者の班員としての登録を解除することができるものとする。

第 2 章 組織

(役員)

第 4 条 診療班に、役員として、代表 1 名、診療所長 1 名及び運営委員長 1 名を置く。

2 役員の役割は、それぞれ次に掲げるとおりとする。

(1) 代表は、診療班を代表し、診療班の活動を統轄する。

(2) 診療所長は、蝶ヶ岳ボランティア診療所を代表し、診療業務を統轄する。

(3) 運営委員長は、代表及び診療所長を補佐し、診療班の活動全般を司る。

3 役員は、幹事会において班員の中から選出された候補者のうちから、総会において承認を得た者とする。

4 役員の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(学生代表)

第 5 条 診療班に、学生から選出される学生代表 1 名を置く。

2 学生代表の役割は、次条以降に定める診療班の運営に係る各種会議の招集・議長等、学生の意見の統括その他必要な事項とする。

(運営組織)

第 6 条 診療班に、総会、幹事会、運営委員会及び会計監査を置く。

(総会)

第 7 条 総会は、診療班の最高議決機関であって、代表がこれを招集する。

2 総会は、班員をもって構成する。

3 総会は、年 1 回開催する。ただし、代表が特に必要があると認めたときは、臨時総会を開くことができる。

4 総会は、班員の過半数の出席により成立する。

5 総会の議長は、原則として年度の学生代表とする。ただし、総会の同意が得られる場合には、学生代表以外の者を議長とすることができる。

6 班員は、委任状を提出し、議場委任することができる。

7 議事は、出席者の過半数で決定する。

8 総会は、予算・事業計画の決定、前年度活動実績及び今年度の展望の報告、規約の改正に係る同意等を行う。

(幹事会・幹事)

第 8 条 幹事会は、総会に次ぐ議決機関であり、診療班の運営方法を決定し、これを班員へ広告する。

2 幹事会は、幹事、学生代表により構成され、運営委員長がこれを招集する。

(1) 幹事会は、幹事、学生代表の過半数の出席により成立する。

(2) 議事は、出席者の過半数で決定する。

3 幹事は、5 名程度とし、班員の有志のうちから総会で承認された者とする。

4 幹事会は、役員の候補者を選出する。

5 幹事会の議長は、原則として運営委員長とする。ただし、幹事会の同意が得られる場合には、運営委員長以外の者を議長とすることができる。

6 代表が必要と認めたときは、幹事会に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

7 幹事の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(運営委員会・運営委員)

第 9 条 運営委員会は、診療班の運営に関し必要な事項を協議するものとする。

2 運営委員は、班員の有志とする。

3 運営委員会は、毎週 1 回を常例として開催し、学生代表がこれを招集する。

4 運営委員会の議長は、原則として学生代表とする。ただし、運営委員会の同意が得られる場合には、学生代表以外の者を議長とすることができる。

5 運営委員会は、活動計画等の診療班に関する事項、班員の入退会の記録等について、提案又はその決定を行う。

6 前項の提案及び決定は、運営委員会の会議のほか、蝶ヶ岳メーリングリスト等によって行うことができる。

7 議長は、議事録を作成させるものとする。この議事録は、蝶ヶ岳メーリングリストにより、公開・報告される。

8 運営委員の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(白蝶会)

第 10 条 別に組織される白蝶会は、診療班への指導・後援を行うものとして、また、第 2 条の事業を行うために、診療班に対してスタッフ派遣などを行うことができる。

2 診療班は、白蝶会の運営等に係る協力を行うものとする。

(会計監査)

第 11 条 会計監査は、診療班の会計業務を監査する。

2 会計監査は、監査の結果に基づき、必要があると認めるときは、代表に意見を提出することができる。

第 3 章 管理業務

(会計)

第 12 条 診療班の会計業務は、学生から選出された会計が行う。

2 会計の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

3 幹事は、会計を補佐する。

(薬剤・衛生材料管理)

第 13 条 診療班の薬剤・衛生材料管理業務は、学生から選出された薬剤係が行う。

2 薬剤係の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

3 幹事は、薬剤係を補佐する。

(会計年度)

第 14 条 蝶ヶ岳ボランティア診療班の会計年度は、11 月 1 日に始まり、翌年 10 月 31 日に終わる。

(活動経費)

第 15 条 診療班の活動に要する経費は、寄附金、名古屋市立大学医学会助成金、名古屋市立大学からの支援金その他の収入をもって充てる。

第 4 章 雑則

(規約の改正)

第 16 条 この規約は、登録されている診療班員の誰もが異議を申し立てる権利を有する。当該申立てがあった場合には運営委員会又は幹事会で討議し、総会において出席者の 3 分の 2 以上の同意で改正できる。

(雑則)

第 17 条 この規約に定めるもののほか、診療班及びその運営等に関し必要な事項は、総会、幹事会又は運営委員会の議を経て、代表が定める。

附則 この規約は 1998 年 4 月 1 日から発行する。

附則 2004 年 11 月 9 日 一部改正

附則 2005 年 11 月 8 日 一部改正

附則 2014 年 2 月 1 日 一部改正

附則 2019 年 1 月 19 日 一部改正

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班に 参加ご希望の皆様（新規参加）

診療班代表 酒々井眞澄

平素より、名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動へのご理解とご協力、どうもありがとうございます。

新規参加者の皆様には、当診療班の規定にもとづき提出していただく書類があります。別途の送付書類をよくご覧いただき、必要事項を記入のうえ書類の提出をお願いします。

次の書類を提出してください。

- ①診療班参加の確認事項
- ②資格（免許証）および身分証明書（資格（免許証）および顔写真付き身分証明書の写し）
- ③スケジュール部門アンケート

①②③の書類の提出をもって参加予定者とさせていただきます。

郵送もしくはE-mailでご提出ください。

担当者宛先：診療班運営委員長 坪井謙

郵送：名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

E-mail：chogatake-staff@umin.ac.jp

書類が整っていることを確認後に、新規参加の可否は診療班運営会議にて最終的に決定します。
参加確定後、蝶ヶ岳ボランティア診療班ホームページの参加者日程にお名前を提示します。適宜ご確認ください。

登山前に必ず以下の2点を行ってください。

- ・登山計画書を記入し、参加する班のリーダーに提出する（原則、登山日の1週間前までを期限とします、期限当日や直前の場合は参加を認めません）。
- ・参加する班のリーダーより送られるスタッフマニュアルをよく読む。

登山予定日1週間前までに診療所で一緒にいる学生から最終確認などの連絡をさせていただきます。（連絡が来ない場合は、お手数ですが下記までご連絡ください）

ご質問などの際はスケジュール担当（cho.schedule.2677@gmail.com）までご連絡ください。

何卒よろしくをお願いします。

診療班参加の確認事項

以下の項目についてご確認後、□に✓をご記入ください。

ご記入後に自署をお願いします。

- ☐ 顔写真付き身分証明書の写しを提出します。医療関係者は資格（免許証）の写しを蝶ヶ岳ボランティア診療班に提出します。
- ☐ スケジュール部門アンケートを記入し、提出します。
- ☐ 患者様および診療班員から得た個人情報は、診療班で必要とされる活動以外の目的では使用しません。

上記事項を確認したので診療班代表酒々井眞澄に提出します。

年 月 日

署名_____

スケジュール部門アンケート

○氏名（よみがな）

_____（性別　、年齢　）

○自宅住所

〒 _____

○メールアドレス（緊急連絡に使用することがあります。正確にご記入ください。）

PC _____

携帯 _____

○電話番号（緊急連絡に使用することがあります。正確にご記入ください。）

自宅 _____／携帯 _____

○職歴等

・卒業学校（卒業年次）

・勤務先

○登山経験

・登山歴

・どれくらいの高さの山にどの程度の頻度で登られたことがありますか

○普段どの程度運動をしていますか

○蝶ヶ岳診療班を知った経緯はどのようなですか（HP、新聞、テレビ、雑誌、友人の紹介など）

推薦者 _____ 様

推薦者の連絡先（メールアドレス、携帯電話番号など）

危機管理体制について

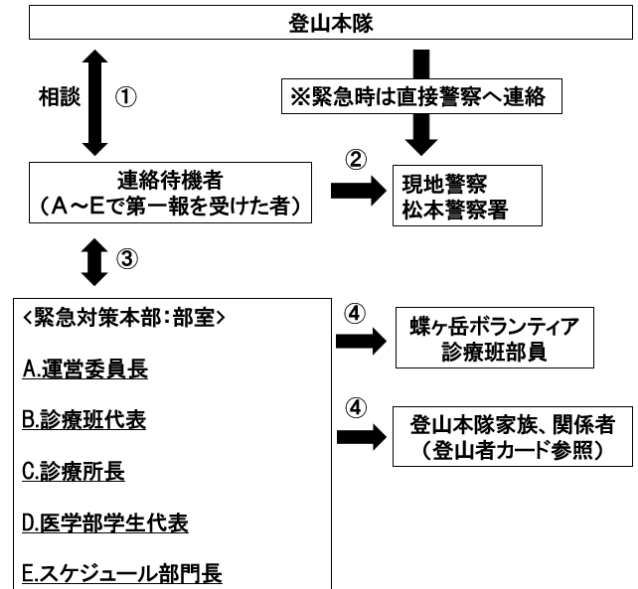
2015.6.23 運営委員会

*安全の確保

班員の安全が全てに優先する。現地のリーダーは班員の安全を第一に考えて判断、行動し、班員の退避により診療活動へ支障が出たとしても、安全を最優先する。活動中は参加する全ての班員は安全確保の規約に従う義務を有する。

*連絡義務

班員は登山開始時・診療所到着時・下山開始時・下山完了時には、全体メーリングリストにて本人があるいは担当学生を介してその旨を報告する。



1.緊急連絡網

- ・緊急事例:何らかの理由(遭難、事故等)で班員の生命に危険が及ぶ場合。
- ・緊急時、診療所から、連絡待機(※)に電話または Skype を用いて連絡。
(※)診療所からは(A)運営委員長、(B)診療班代表、(C)診療所長、(D)医学部学生代表の順に連絡をとり、第一報を受けたものが連絡待機として情報の集約・管理を行う。
- ・下界にて第一報を受けた者は、(A)、(B)、(C)、(D)、(E)スケジュール部門長に連絡をとる。
- ・(B)は緊急対策本部を部室内に設置する。
- ・他の関係者、保護者等には(D)中心に連絡を適宜取り次ぐ。
- ・緊急時、部室は診療所と交信する緊急対策本部として利用し、情報の集約・管理は部室(緊急対策本部)に一元化する。
- ・部室が開いていない時間帯では、部室が開くまでの間、情報の管理は連絡待機が担う。部室が開き次第、部室にて情報を集約・管理する。
- ・診療所における学生連絡係は連絡待機と定時連絡をして状況の把握、情報管理、報告を行う。(集まった情報の正確性は重要、単なるうわさや情報修飾に注意。診療所との情報のやりとりは、原則連絡待機が担当する)
- ・(B)は緊急対策本部の役割が終了した時点で緊急対策本部を解散する。

2.連絡法

- ・ヒュッテ電話(ゼロ発信必要)
- ・ヒュッテ公衆電話(ヒュッテ電話とは回線が違う)
- ・個人の携帯電話
- ・スカイプ・メール
- ・全体メーリス

3.出動の要請

蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に関する合意書 第6条参照

- ・診療所班員は山岳遭難救助活動に参加する義務を負わないことを原則とし、山岳遭難救助活動は診療班の本務とするものではないことに留意する。
- ・2重遭難の防止が重要である。現場のスタッフとヒュッテ駐在救助隊員(酒井雄一さん等)の協議により行う。
診療所近傍＝声の届く範囲では、診療班の主体的判断で病人を診療所へ搬送することがある。
遠隔地＝蝶ヶ岳山頂テント場、瞑想の丘を越えた山岳地帯で救援活動補助を行う場合、ヒュッテ駐在の救助隊員と協議して、その指示に従う。(出動指示は原則断る)
- ・山頂での野外救援活動の指令リーダーはヒュッテ駐在救助隊員(酒井雄一さん等)とする。
- ・安全に配慮して診療班は診療所で待機することを原則とする。
- ・安全な医療活動ができると現地での判断ができれば、ヒュッテ駐在救助隊員の指示に従って救援活動を補助する。遭難者から直接診療班スタッフに救援要請が入った時も、ヒュッテ駐在救助隊員との協議・指示で補助することがある。
- ・ヘリコプター要請(長野県警または長野県広域消防隊)については、医療スタッフが必要と判断した場合、ヒュッテ駐在救助隊員(酒井雄一さん等)等を介して要請する。(ヒュッテは山岳遭難に関した共用の無線を利用できる)
- ・必要に応じてヘリ搬送を要請し、その後は長野県警山岳遭難対策本部の指示に従う。(処置や搬送法については医療アドバイスに留める)

*ヘリ搬送での留意事項

ヘリ搬送の可否および方法はパイロットの最終判断で行う。

救助には救助する側(救助者)の安全確保を優先し、2次遭難を避ける。

医療者側からの指示は救助者に重大な対応や制限を強いることがあることを自覚する。

ヘリ要請時は必要に応じて診療班員も情報共有にかかわる。

診療班員は医療アドバイスをとおして救助活動をサポートする立場である。

④医師不在時の対応・医療相談

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班ホームページ、蝶ヶ岳ボランティア診療所の診療体制の項を参照
(http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyo_naiki.html)

- ・医師不在時あるいは初期研修医等の診療でサポートが必要な場合や、受診患者が専門分野でなく困った場合などには、前述の連絡網にてある程度対応することが可能。
 - ・医師不在時にできる医療は限られている。その旨を患者に伝える。
- 医師とは相談できる程度である。薬剤師がいれば患者の要請がある場合、医師を通じて処方是可以、など。
- ・問診・診療などをオンラインで補助する場合、患者の同意が必要である。

⑤悪天候時の対応

* 行動の原則:

診療班員は長野県地方または岐阜県地方に気象警報が発令中の時は、下山・入山などのすべての行動を中止する。台風のコースが発表されて、近日中に長野県に警報発令が予測できる状況では、下山の繰り上げ、または入山の延期を検討して判断する。

* インターネットと電話連絡網が使える状態:

悪天候時またはそれが予測される場合にリーダー(班員)は運営委員長に連絡・協議し、運営委員長は行動予定を最終決定し責任をもって班員の安全を確保する。班の行動予定を変更すべき場合には、運営委員長はメーリスを介して文書で全診療班員に伝達する。運営委員長がこの職務を遂行できない場合には、運営委員がこの職務を代行する。

* インターネットと電話連絡網が使えない状態:

現地のリーダーは医師、山小屋のメンバーと協議し、班員の安全を第一に考えた判断をする。リーダー(班員)は連絡が可能になった時点で状況を運営委員長(不在時は運営委員)にすばやく報告する。行動完了予定時刻を過ぎてなお連絡不通の場合は連絡網リストA～Dの者および運営委員は想定される事態に責任を持って対応する。

* ルート選択:

最も安全な避難ルートは「長堀尾根――徳沢――上高地ルート」である。緊急事態では徳沢まで自動車による搬送を要請することも可能である。ただし台風の直撃や、局地的な地震災害を受けた場合のルート状態は予測が難しい。できる限り目的地と連絡を取って、名古屋まで帰還できることを確認した上で行動を開始する。

夏期の三股ルートは通常の降雨中でも安全と考えられる。しかし、「力水」以下のルートは沢筋のため、豪雨中・後は沢が増水・崖の崩壊などの危険があるので、高巻き退避ルートを使わざるをえない可能性がある。豪雨時にやむをえず下山する場合は、三股ルートを避けて長堀尾根ルートを使って徳沢へ下山し、日大医学部徳沢診療所へ救援を求めるのが安全と思われる。ヘリコプターが飛べない気象状態でも、徳沢までは車両を使った救援活動が可能である。積雪期(5月まで)では、三股ルートの頂上付近はトレースがなく安全なルート確認が難しい状態である。5月以前の積雪期に入山する場合には、積雪期の完全装備(ロングスパッツ、ピッケル、アイゼンなど)を整え訓練した上で長堀尾根ルートを優先的に選択する。

台風発生時の対応マニュアル

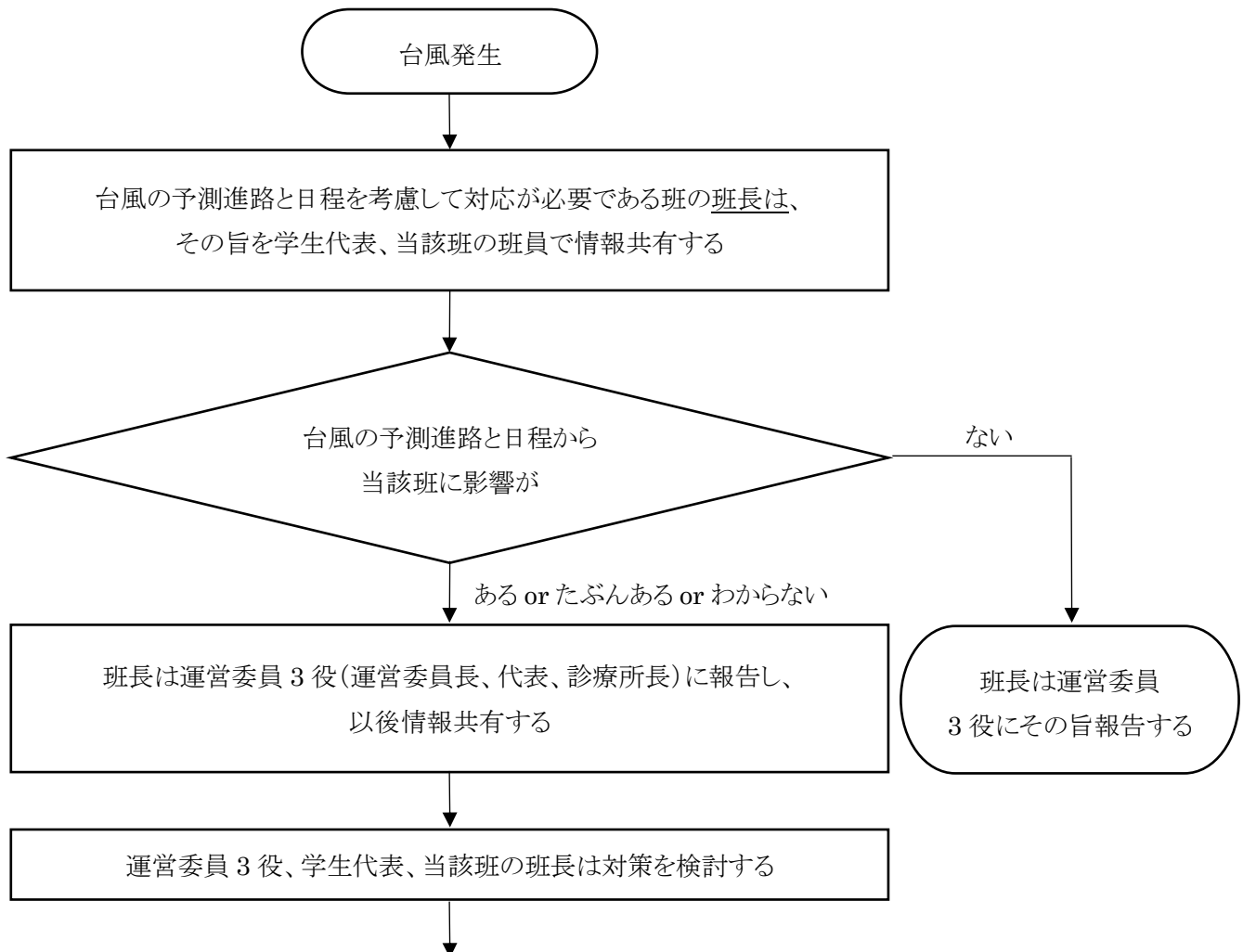
診療班代表 酒々井眞澄

2021 年度学生代表 岩城俊亮(M3)

【背景】

2015 年から 2017 年に開所期間中に台風接近に伴う退避行動や一時閉所が計 5 回あった。2018 年の開所期間中に 3 つの台風(12 号、13 号、19 号)により一時閉所 2 回、正規班と臨時班について登山の中止、整理班とポーター班の下山を早めた。これまでは、特段の対応手順はなく、診療班の診療班代表あるいは運営委員長が起点になり、これら教員と学生代表や班長が台風の動きについて情報共有し何らかの対応の必要性について適宜検討し対応していた。しかし、診療班代表あるいは運営委員長が開所期間中に常時対応することは不可能である。にこれらの背景より、台風発生時の対応マニュアルをここに提案する。このマニュアルは、私たちがこれまでに行ってきた対応をわかりやすくまとめたものであり、いつ頃に、だれが、何をするか、が記載してある。安全な活動の一助になれば幸いである。

【台風発生時の対応マニュアル】



診療班(正規班・臨時班・学生がポーターとなる医療スタッフ班含む)の登山の延期、中止、下山を早めるなどの対策を決定する(早朝・深夜の電話会議などもあるので関係者は 24 時間連絡可能な状態で待機する)

当該班長は、当該班員全員と、当該班と期間が連続あるいは期間が重なる診療班の関係者全員(医療スタッフ班含む)に決定内容を報告する
当該班長は、その旨ヒュッテスタッフ(酒井支配人、鈴木副支配人)に報告する
運営委員長は、その旨神谷圭子様に報告する

学生代表は全体メーリスにて診療班全体にその旨を周知する

当該班長は、登山の延期、中止、下山を早めるなどの対応を進める
当該班長は、一時閉所チェックリストあるいは完全閉所チェックリストに従い閉所を準備する

登山の延期、中止、下山を早めるなどの対応の実施と
診療所の一時あるいは完全閉所

学生代表は、登山の延期、中止、下山を早めるなどの対応の実施と診療所の一時閉所あるいは完全閉所を全体メーリスにて報告する

台風の進路に注視しながら学生代表と次の班長は、
運営委員 3 役と台風通過後の対応を検討する

次の班長は、決定に従って移動あるいは登山準備を進める
次の班長は、準備状況を適宜運営委員 3 役に報告する

【注意事項】

- ・班員の安全を最優先して行動する。
- ・台風を含む自然現象への対応は極めて難しいことがある。このマニュアルは、必ずしもすべてをカバーするものではない。
- ・台風が発生した場合は、予測進路にかかわらず学生代表および当該班長は、運営委員 3 役にその旨を報告する(どのような場合も報告して情報共有する)。
- ・運営委員 3 役と連絡が取れない場合は、他の運営委員に連絡する。
- ・台風の進路を注視し、対応する必要がある場合は、運営委員 3 役・班長・学生代表で情報共有する。
- ・情報共有を密にする。
- ・上記関係者は早朝や夜間でも(24 時間)連絡可能な状態で待機する。
- ・運用の状況に合わせて本マニュアルを適宜修正し、よりよいものにしていく。



撮影日:2018.07.14

名古屋市立大学

蝶ヶ岳ボランティア診療班

参加者および同伴者の宿泊経費

2014.11.15

1) 学生および教員スタッフ:

冬期小屋または、炊事用テントで宿泊するボランティア診療活動メンバー(学生、医師、看護師、教員スタッフ)の宿泊経費の個人負担はありません。ヘリコプターでヒュッテへ荷揚げされている根菜類(人参、ジャガイモ)、卵、肉類、味噌、塩などの基本食材は、必要十分量を各班の計画書としてヒュッテに提示することで、支給を受けることができます。ただしヘリコプター荷揚げは天候に左右されるので、状況によっては種類と量を臨機応変に調節する必要があります。食料計画書には、ご飯を食べる人数も記入し、食事ごとに櫃で暖かいご飯の支給を受けられます。朝食時に、昼食用(おにぎりなどの行動食等)の特別ご飯量も計画書に記入することで支給を受けられます。これら費用は、ヒュッテ側に宿泊経費として一日一人1,000円の計算で、蝶ヶ岳ボランティア診療班から一括して後から支払います。

2) 同伴者が冬期小屋またはテントで宿泊する場合:

ご家族等を連れて入山する場合も、学生班の食料計画書に加える必要があります。事前に運営委員会に入山計画書を提出し、学生班の食料計画書に記載される限り、現地で宿泊料金の支払いは不要です。ただし参加者一律、一日1,000円計算でヒュッテ側に宿泊経費を支払っている事実をご理解いただき、同伴者に関しては、人数×滞在日数×1,000円で計算して、蝶ヶ岳ボランティア診療班に事前に納めて下さい。

3) 同伴者が客室で宿泊する場合:

A: 入山計画書を運営委員会に提出し、班長が事情を理解している場合には、5,000円／一泊二食で事前に蝶ヶ岳ボランティア診療班へ納めて下さい。ヒュッテに到着した時点で、班長からヒュッテ受付へ「蝶ヶ岳ボランティア診療班扱いで、

客室と食事の用意をお願いします。」と伝えて、宿泊受付を済ませて下さい。現地での宿泊料金の支払いはありません。

B: 入山計画書の事前提出が無く、現地班長が事情を把握していない場合は、個人責任で一般登山客として一般宿泊料金を現地受付でお支払いいただき宿泊して下さい。

三浦裕

蝶ヶ岳ボランティア診療班特別運営委員
至学館大学健康科学部栄養科学科教授
miura@sgk.ac.jp



蝶ヶ岳ボランティア診療班

運営組織(敬称略)

診療班代表	酒々井眞澄	森山昭彦(前診療班代表,H21～24)
	医師・名市大大学院医学研究科神経毒性学教授	中部大学応用生物学部環境生物科学科教授
診療所長	薊隆文	今までお世話になった方々(敬称略 五十音順)
	医師・名市大看護学部病態学教授	浅井清文 河辺眞由美 黒野智恵子 土肥名月 西村恭子
運営委員長	坪井謙	野路久仁子 矢崎蓉子
	医師・名市大附属東部医療センター消化器外科学 講師	
運営委員	青木康博	
	医師・名市大大学院医学研究科法医学教授	
運営委員	服部友紀	
	医師・名市大大学院医学研究科先進急性期医療学 教授	
運営委員	松嶋麻子	
	医師・名市大附属東部医療センター救命救急医療 学教授	
運営委員	早川智章	
	薬剤師・名市大病院薬剤部	

幹事(敬称略)

酒々井眞澄 薊隆文 坪井謙
青木康博 服部友紀 松嶋麻子 早川智章

今までお世話になった診療班代表・診療所長・運営委員長

の先生方(敬称略) (現職または前・元職表示)

太田伸生(元診療班代表,H10～17)
鈴鹿医療科学大学教授
故・武内俊彦(元診療所長,H10～17)
元名市大医学部名誉教授
徳留信寛(元運営委員長,H10)
元名市大医学研究科分子神経生物学准教授
三浦裕(前運営委員長,H11～24)
至学館大学栄養科学科教授
勝屋弘忠(元診療所長,H13～18)
元名市大医学研究科麻酔・危機管理医学教授
津田洋幸(元診療班代表,H18～20)
名市大津田特任教授研究室教授
森田明理(前診療所長,H19～24)
名市大医学研究科皮膚科学教授

参加・協力 学生

M6 井上 右喬
梅田 翔梧
桑江 優稀乃
小林 礼実
谷合 美南
畑中 景
福富 妃菜
藤永 拓実

M5 浅田 貴登
安藤 詩音里
岩瀬 正之
梅村 祐美
後藤 麻衣
ストックウェル 美亜
田中 秀和
永野 有紗
中野 聖也

M4 安藤 魁星
安藤 有希乃
岩田 恵理子
神田 伸一
北野 暁也
久野 聖斗
島田 里奈
土屋 佑太
開田 晃生
藤原 昂佑
古川 省三
松本 史也
三鬼 龍馬
水谷 太紀
横井 里佳
渡辺 陽介

N4 浅野 今日子
高梨 響
増田 梨沙
横山 真由

P4 高岸 優太
戸室 幸太郎

M3 浅井 昂大
安東 知里
井手上 駿(会)
伊藤 理子
岩城 俊亮(学)
尾崎 斗南
笠井 翔太
梶川 奨真
加藤 圭(診)
蟹江 麻由
神田 唯衣
木村 颯花

栗原 瑞季(薬)
小出 瑛景(情)
佐藤 奈々
嶋田 匡孝
高木 智之(報)
高橋 洸太(ス)
武市 和也
中濱 花菜(勉)
西山 真由

N3 久保田 好梅(学)
白石 葉菜
鈴木 このか

P3 伊東 里彩
近藤 里菜
高木 慧佑
村崎 亘

M2 安藤 丈裕
伊倉 健
石川 総由
小串 聡一朗

迫 千恵音
田淵 紗矢香
中川 楓美恵
中農 七海
久松 脩典
山口 莉奈

N2 小山 紗恵
藤下 愛理
藤原 万滉

M1 浅利 怜汰
鈴木 智央里
高橋 航太朗
花崎 潤弥
原田 悠希
水野 太陽
宮永 大二郎
三好 愛美
矢野坂 直輝

山本 峻也
若杉 大路

N1 渡辺 明音

(学)：学生代表
(会)：会計部門長
(情)：情報技術部門長
(診)：診療環境部門長
(ス)：スケジュール部門長
(勉)：勉強会部門長
(報)：報告書部門長
(薬)：薬剤部門長

M: 医学部

N: 看護学部

P: 薬学部

診療班活動概要

＊勉強会

年間を通して毎週月曜日に、夏山での活動に備えるための勉強会を実施しています。

＊幹部会

学生間で不定期に診療班の運営に関する議題を話し合っています。

＊運営委員会

運営委員の先生方もしくは生徒から議題が上がった場合、先生方を交えた会議を1時間程度行い、診療班を運営しています。

＊練習山行

4、5月に入道ヶ岳・竜ヶ岳・御在所岳を登り、夏の蝶ヶ岳登山のシミュレーションをします。今年度は新型コロナウイルスの影響により行っていません。

＊診療活動、地上でのサポート

今年度は新型コロナウイルスの影響により診療活動は行っていません。

＊2021年度夏山参加スタッフ数・学生数・患者数

今年度は新型コロナウイルスの影響により診療活動は行っていません。

運営上の主な変更点

＊活動方法について

今年度は新型コロナウイルスの感染防止を鑑み、基本的にZoomを用いた会議・勉強会を行いました。
学生課から許可が下りた場合は学生課のガイドラインに従い、感染防止対策を徹底した上で対面での活動を行いました。

2021年度診療班活動記録

日付	活動	内容
2020年	11月 9日 勉強会(Zoom)	医療面接
	12月 5日 名古屋市立大学医学会総会	参加:坪井謙先生(運営委員長)
2021年	1月 18日 勉強会(Zoom) 26日 幹部会(Zoom)	蝶ヶ岳の歴史 新歓, 練習山行, 新歓の情報発信
	2月 1日 勉強会/幹部会(Zoom) 8日 幹部会(Zoom) 12日 幹部会(Zoom) 15日 勉強会(Zoom) 22日 幹部会(Zoom)	症例別対処/新歓用SNS, 新歓方法, 仮入部員本入部の時期決定, 練習山行の場所・山行統括決定 勉強会におけるカルテの扱い, 仮入部員の本入部・練習山行日程・グッツツアー日程 新歓説明会・新歓勉強会の内容・感染対策・新歓係, 新歓以降の勉強会の頻度 仮入部員の本入部に向けての話し合い, 新歓係 バイタル医療面接総復習 前期勉強会, 山岳気象講演会, 新歓冊子, 勉強会資料の扱い
	3月 9日 運営委員会(Zoom) 23日 幹部会(Zoom) 30日 運営委員会(Zoom)	山岳気象講演会, 新歓・勉強会の実施方法 2021年度の夏の診療活動について, 部室の心電計について 新歓勉強会の時間と場所・活動計画書, 山岳気象講演会, グッツツアー 部室のパソコン, 報告書, 蝶ヶ岳の山小屋オーナーからの診療所の場所変更案について
	4月 5日 幹部会(Zoom) 15日 勉強会 20日 勉強会 26日 勉強会 28日 勉強会	新歓勉強会の開催方法, 勉強会資料の扱い, ケーススタディ, コロナ感染対策 山について①(新歓) 山について①(新歓) 山について②(新歓) 山について②(新歓)
	5月 6日 幹部会(Zoom) 10日 勉強会 17日 勉強会(Zoom) 24日 勉強会(Zoom) 29・30日 第41回日本登山医学会学術集会 31日 勉強会(Zoom)	夏山について, fc2ブログの閉鎖, 活動計画書 薬剤保管用の冷蔵庫購入, 新入部員の勉強会担当の開始時期 バイタル 医療面接① 薬剤① 参加:酒々井眞澄先生(診療班代表)、薊隆文先生(診療所長)、坪井謙先生(運営委員長) 医療面接②
	6月 21日 勉強会 28日 勉強会 30日 山岳気象講演会(Zoom)	医療面接・バイタル連携 症例共有会・予防的介入 猪熊隆之氏による講演会 (～蝶ヶ岳の気象特性と雲から学ぶ気象リスク～ 様々な気象現象のメカニズム・落雷への対処について)
	7月 5日 勉強会 13日 運営委員会(Zoom) 20日	薬剤② 今年と今後の活動方針 メーリスにて, 2021年度の活動方針が連絡される
	9月 11日 幹部会(Zoom) 27日 勉強会(Zoom)	コピー用紙について, 部門の引き継ぎ, 勉強会欠席者の把握について 夏山について
	10月 4日 勉強会 11日 勉強会 18日 勉強会 25日 勉強会	医療面接・バイタル発展 緊急出動・天気 薬剤発展 緊急時の対応

診療録閲覧申請をした部門と日付および目的

日付		目的
2021年1月13日	勉強会部門*	勉強会資料作成
2021年4月26日	勉強会部門*	勉強会資料作成

*どちらも勉強会部門医学部3年嶋田国孝が責任者として診療録閲覧申請を行った。

診療所でのネットワーク障害とその対応

2019 年度情報技術部門

2019 年は診療期間中ヒュッテに提供していただいている通常のインターネット環境を用いることができず、例年とは異なる対応を行った。今後も起こりうるという状況を想定して、今回の対応を参照することができるようにある程度詳細に文書に残す。ここではネットワーク環境の構築そのものに対してどのような対応を行ったかを経時的に述べる。

【2019 年度ネットワーク障害の経過と対応】

7 月 13 日(土)	登頂後の準備活動中、診療所にて班員が Skype の接続テストをした際、速度障害が見つかった。その場では LAN ケーブルを変更し、ファイアウォールの設定を切ることを試みたが、改善には至らなかった。 ヒュッテの鈴木千恵様に相談したところ、障害自体は春ごろから北アルプスにあるヒュッテの一部に生じていることが分かった。加えて、ヒュッテの酒井雄一様への相談も勧められたが酒井様は当日ヒュッテには不在だった。
7 月 14 日(日)	接続状況の不調に変化はなかった。
7 月 15 日(月)	鈴木千恵様に情報技術部門班員の連絡先をお渡しし、準備班は下山した。
7 月 16 日(火)	学生不在期間中、詳細な山頂報告ができないことを問題視した今村篤研修医が au Wi-Fi(4G)のモバイルルーター導入を診療班運営会議で提案した。この機種は au 4G 回線のアクセススポットが蝶ヶ岳山頂にあるため承認された。
7 月 17 日(水)	Wi-Fi ルーターが蝶ヶ岳山頂で使えない場合を考慮し、部員の携帯電話のキャリアを全員分調べ上げた。接続状況がよい au キャリアの班員がいない班について詳細な調査を行った。
7 月 19 日(金)～ 7 月 21 日(日)	研修医のサポーターとして、学生が 4 名登頂した。 この間の部室との連絡は学生の携帯電話にて行った。
7 月 24 日(水)	今村篤研修医が登頂し、au Wi-Fi の設営を行った。au Wi-Fi によるインターネット接続は良好であり、その後はこれを用いて例年通りの診療活動を行うことができた。
7 月 25 日(木)	臨時班(M3 班)が登頂した。自ら荷揚げした新規購入パソコンを用いて、例年用いているネットワークへの接続を試みたがやはり速度障害が生じた。au Wi-Fi へは問題なく接続できた。通信量を制限するため、総合情報などを保存している OneDrive の自動同期をオフにし、手動でのみできるように設定した。
8 月 10 日(土)	情報技術部門の発案で、通信量の消費が多く、緊急時に速度制限のためにビデオ通話等ができなくなるリスクを考慮して、Skype の定期報告は音声通話のみで行うという制限を付した。

実際に利用した au Wi-Fi の情報については次の通り。

会社: Wi-Fi RENTAL JAPAN

機種: au WiMAX W04

レンタル期間: 2019/07/23~2019/08/23

通信量制限: 7 GB/月 (月末リセット)

金額: 4,579 円 (別途送料、消費税)

【まとめ】

診療活動中(7月13日(土)~8月19日(月))には診療所内のネットワークは復旧しなかった。診療所のネットワークシステムは古く、設営当初とは異なり現在山頂には au 4G 回線のアクセスポットもあるため、今後も復旧しない可能性も想定すべきであろう。2020 年以降は、準備班の段階でネット環境を確認し、復旧していなければ今回と同様に Wi-Fi レンタルを素早く準備する必要がある。その際には、この記録が一助となれば幸いである。

最後に、ネットワーク接続障害が見つかった時にヒュッテで話を聞いてくださった鈴木千恵様、ネットワーク障害時に診療活動に携わっていただいた医療スタッフや学生、自らのアイデアで Pocket Wi-Fi をレンタルしてくださった今村篤先生(当時研修 1 年目)に深く感謝いたします。



2021 年度 会計収支決算報告

2021 年度(2020 年 11 月 1 日～2021 年 10 月 31 日)蝶ヶ岳ボランティア診療班の収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

第 24 期会計：井手上駿 梶川奨真

収入の部		支出の部		(内R2年度 大学支援金)	(内R3年度 大学支援金)
前年度繰越金	4,858,139	医薬品費		0	
(内大学からの支援金)	239,140	医療機器費		0	
寄付	20,000	内訳 (診療用備品費)		0	
診療寄付	0	(診療消耗品費)		0	
山頂募金箱	0	部室備品費		25,968	
同行者宿泊経費	0	一般消耗品費		41,653	
大学からの支援金 (2021.4.1～2022.3.31)	306,000	山用品費		0	
長野県山岳遭難防止対策協会	0	保険料		0	
瑞友会(名古屋市立大学医学部同窓会)	200,000	通信・運搬費		69,960	
松本市山岳診療所報償費	0	宿泊経費		0	
銀行利息	3	運営活動費		355	
		2020年度報告書印刷費		239,140	239,140
		積立金		50,000	
		学術活動費		40,660	
(年度内合計)	526,003	(年度内合計)		467,736	0
		次年度繰越金		4,916,406	306,000

備考)

- 1.部室備品費 部室のOffice 365のライセンス更新費。昨年分が未払いだったため2年分。
- 2.一般消耗品費 勉強会費。勉強会に使用する物品や部室プリンターのトナー代。
- 3.通信・運搬費 部室の電話代。
- 4.運営活動費 諸手数料。
- 5.学術活動費 猪熊氏の講演会費。手数料を含む。

2021 年度 会計監査報告

2021 年 11 月 19 日、会計帳簿、現金、領収書などの監査を行い、決算報告書に誤りのないことを確認しました。

第 24 期会計監査：

赤津裕彦

問診用カルテ(学生用カルテ)

ふりがな

氏名 _____様 性別 男・女

生年月日 大正・昭和・平成 _____年 _____月 _____日 _____歳

本日の宿泊先……テント場 / ヒュッテ内(部屋名 _____)

住所

(〒 _____ - _____)

身長 _____cm 体重 _____kg 職業 _____

記載者 _____

来診日時 _____月 _____日
_____時 _____分 (24時間表記)

備考/使用薬剤・衛生材料

主訴

現病歴

アレルギー

(薬物・食物・金属等)

(アルコールアレルギー) 有・無

服薬歴

既往歴

(高山病・登山中の外傷など)

(手術歴・健診の結果)

生活習慣

喫煙 _____本/日 _____年 飲酒 _____/日

登山歴 _____年 1年に _____回 週に()日程度運動する

AMSスコア

頭痛	消化器	疲労感	めまい	計	意識	歩行テスト	浮腫	計	総計

日本登山医学会ロレイクルイーズAMSスコア 2018年改訂版

★ 行動歴

前日の睡眠 _____時間

入山 _____日目/全行程 _____日

時刻 場所

登山時間 _____時間

今後の予定 下山/縦走() 方面

下山予定時刻(:)

水分量 _____mL ()
_____mL ()

食欲/食事

飲酒状況

排便/排尿

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ No. _____

診察用カルテ(医師用カルテ)

※学生不在時であっても、問診用カルテの患者の個人情報、★マークのある所は埋めてください。

現病歴および身体所見 患者氏名 ふりがな _____

診断名 _____

処置・処方等

薬剤等の準備者 _____ 調製者 _____ 医師確認 ☐ (レ点記入)

(使用薬剤、衛生材料を記載、医師の処方後に準備者と調製者はサインを記入、医師のチェックを受けてください)

検査結果 時刻 _____時 _____分 _____時 _____分
 O₂ 投与流量……… _____(L/min) _____(L/min) _____(L/min)
 O₂ 投与時間……… _____分 _____分 _____分

転帰

医師名(サイン) _____

Vital sign	____時____分 ()	尿検査	____時____分 ()
SpO ₂ (%)		白血球	
脈拍数 (回/分)		ウロビリノーゲン	
血圧 (mmHg)	/	蛋白質	
体温 (℃)		pH	
呼吸数 (回/分)		潜血	
		比重	
血糖検査	____時____分 ()	ケトン体	
血糖値(mg/dL)		ブドウ糖	

患者氏名 _____ 様

バイタルサイン経過表 NO. ____-____

観察者	時刻	SpO ₂	脈拍数	血圧	体温	呼吸数	備考
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			
				/			

処方および薬剤等の準備(調剤)時の注意事項

名古屋市立大学病院 薬剤部

早川智章(薬剤師)

蝶ヶ岳ボランティア診療班

2017 年度薬剤部門

① A 材オーダー表を用いた処方および準備

《整理番号を用いた準備の指示》

スタッフが薬品名を聞き間違えることを防ぐ為に、医師は A 材オーダー表(2017 年度に新たに作成)に基づき「整理番号」および「商品名」の 2 項目でスタッフに指示を出す。

《医師の指示の復唱と、準備時のダブルチェックの徹底》

医師の指示を受けた薬剤等の準備者(以下準備者と略)は、医師に対して「整理番号」、「商品名」、「薬剤カテゴリ」を声に出して確認する。準備者は確認した後、薬剤配置表の「整理番号」に基づき準備する。

準備者は準備した薬剤および A 材オーダー表を、必ず医師に示して医師に目視で確認してもらう。

注射剤を調製する場合は、準備した薬剤を薬剤師・看護師などの注射剤を調製する医療スタッフ(以下調製者と略)に渡す。調製者は調製前の薬品と調製後の薬品を、必ず医師に示して医師に目視で確認してもらう。

⇒手順については次項の処方および準備手順参照。

② 準備に関わる行為の署名欄および確認チェック欄の追記

準備に関わった者が責任を持って仕事を果たす為に、カルテに準備者と調製者の署名欄を設ける。また最終確認者である医師のチェック欄(レ点チェック)も設ける。準備者と調製者は作業完了時に署名し、医師は医師確認欄にチェックする。

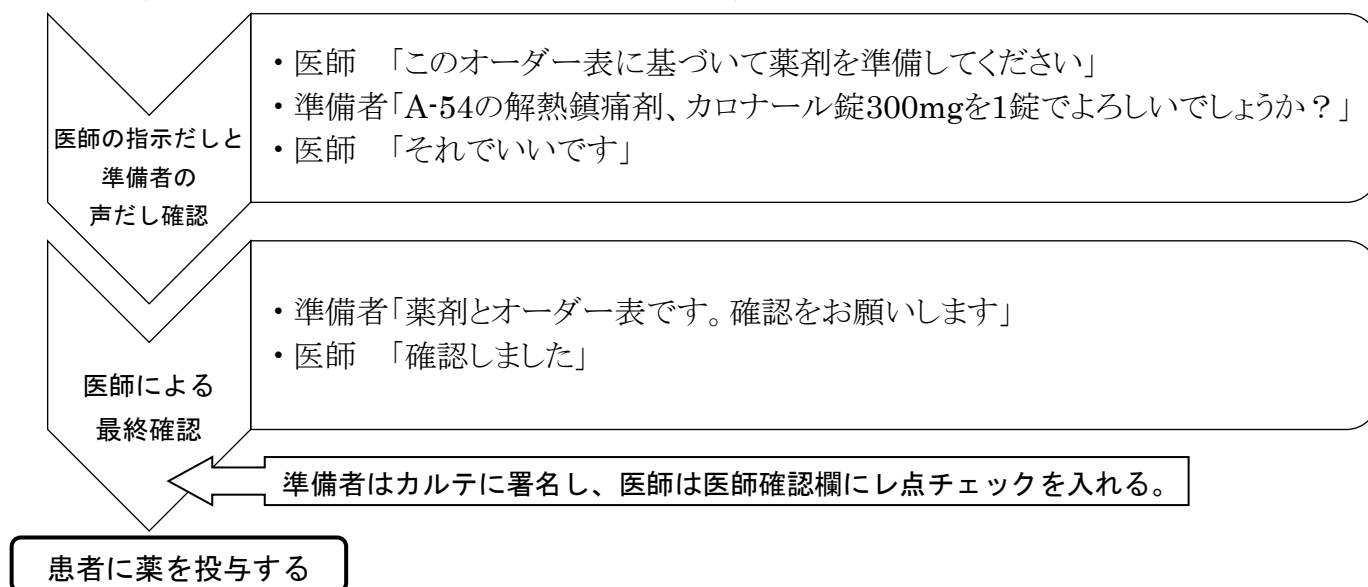
※医師が一人で診療を行う場合はこの限りではない。

※看護師・薬剤師が準備者である場合は調製者も兼ねてよい。

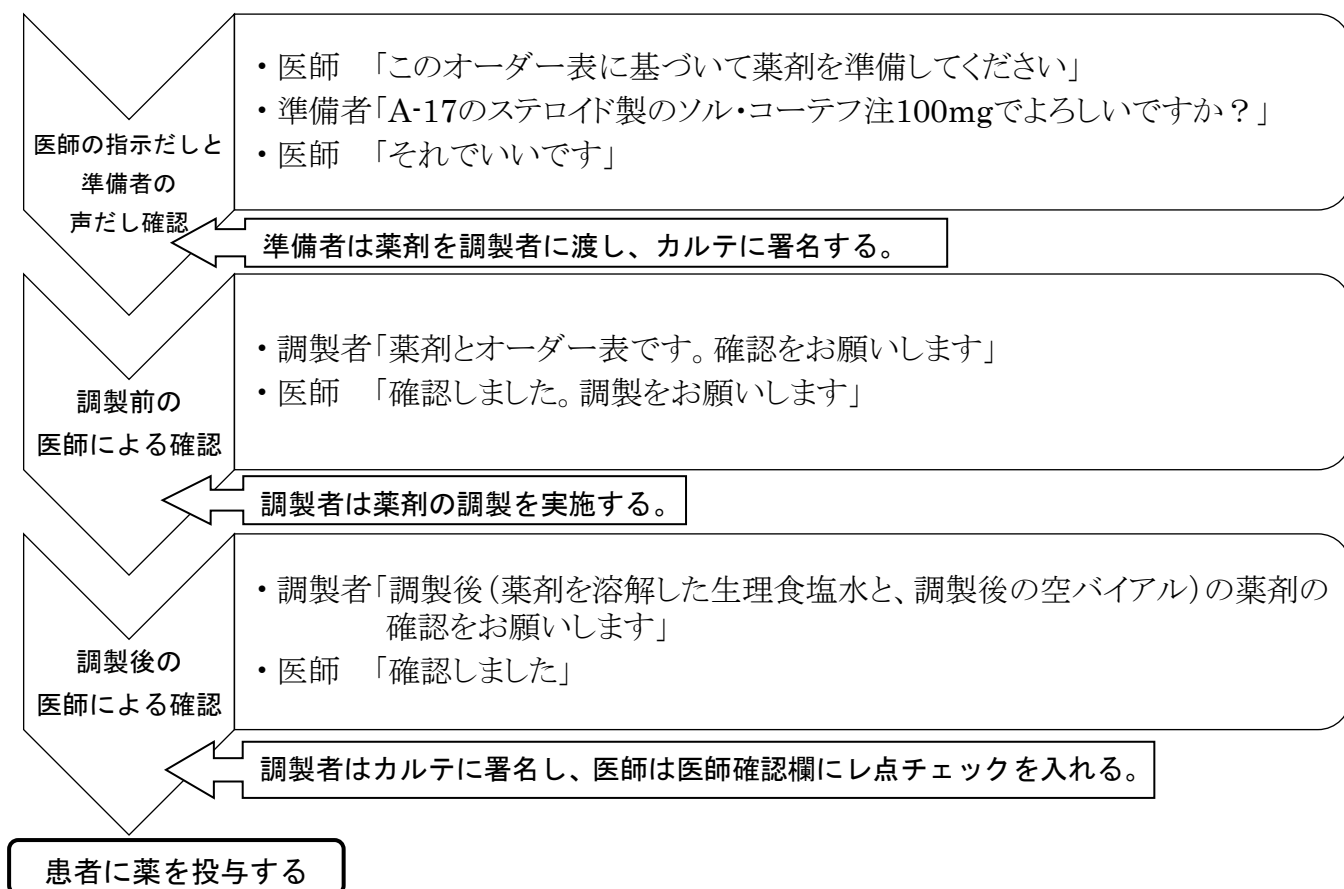
※以上の注意事項は A 材のみを対象としている。B 材・C 材・D 材を使用する際にこの手順を踏む必要はない。

○処方および準備手順

A) 内服薬の処方および準備、医師による確認(外用薬もこの手順に準じる)



B) 注射剤の処方および準備、医師による確認



酸素ボンベについて

蝶ヶ岳ボランティア診療班
薬剤部門 福富妃菜(M6)

【酸素不足に対する対応の経緯】

2016 年度の酸素ボンベ不足の事態を受け、2017 年度に行った対応を示す。

①酸素ボンベ新規購入およびメンテナンス時期の調整

【目的】

2017 年度診療所開所時に満タンの酸素ボンベが 5 本ある状態にする。また所有するすべての酸素ボンベのメンテナンスを開所期間とずらす(例えば 9 月にメンテナンスに出すことでその 3 年後の 8 月までは問題なく使用できるようにする)。

【経緯】

2017 年 6 月時点で診療班が所有する酸素ボンベのメンテナンス状況を以下に示す。

〈酸素ボンベメンテナンス状況〉2017 年 6 月時点

	前回メンテナンス時期	次回メンテナンス時期	保管場所と対応	残量	2017年11月時点での保管場所と残量
A	2016年8月	2019年7月31日	部室、荷揚げ	満タン	診療所、満タン
B	2016年8月	2019年7月31日	部室、荷揚げ	満タン	診療所、満タン
C	2014年8月	2017年7月31日	部室、荷揚げ	満タン	診療所、56L
D	2014年8月*	2017年7月31日*	診療所、使用後荷下げ	使いかけ(134L)	業者により回収済み
E	確認できず*	確認できず*	診療所、使用後荷下げ	満タン	部室、満タン(2017年10月メンテナンス済み)

*診療所にあるため山頂報告を確認した結果を示す。

・酸素ボンベメンテナンスについて:酸素ボンベのメンテナンス期限は前回メンテナンスから 3 年後の 1 か月前までである。メンテナンス期限を過ぎた酸素ボンベについては充填の際にメンテナンスが必要になる。メンテナンスには約 1 か月かかる。

・使用順について:メンテナンス時期と残量を考慮しボンベ D、E、C から優先的に使用する。

メンテナンス状況、ボンベ使用順などを考慮した結果、開所期間中に酸素不足の事態に陥る可能性が考えられた。そのため酸素不足の予防として、ボンベを 1 本新規購入し(ボンベ F)開所時に満タンのボンベが 5 本ある状態にした。

また所有するボンベのメンテナンス時期を開所時期とずらすことで、開所期間中に充填に出したとしてもメンテナンスされることなくすぐに使用できる。そのため今年度よりボンベのメンテナンスは閉所後の 9 月以降に出すこととする。今年度はボンベ D、E について 2017 年 9 月にメンテナンスに出した。他のボンベについても来年度以降順次メンテナンス時期を調整していく。

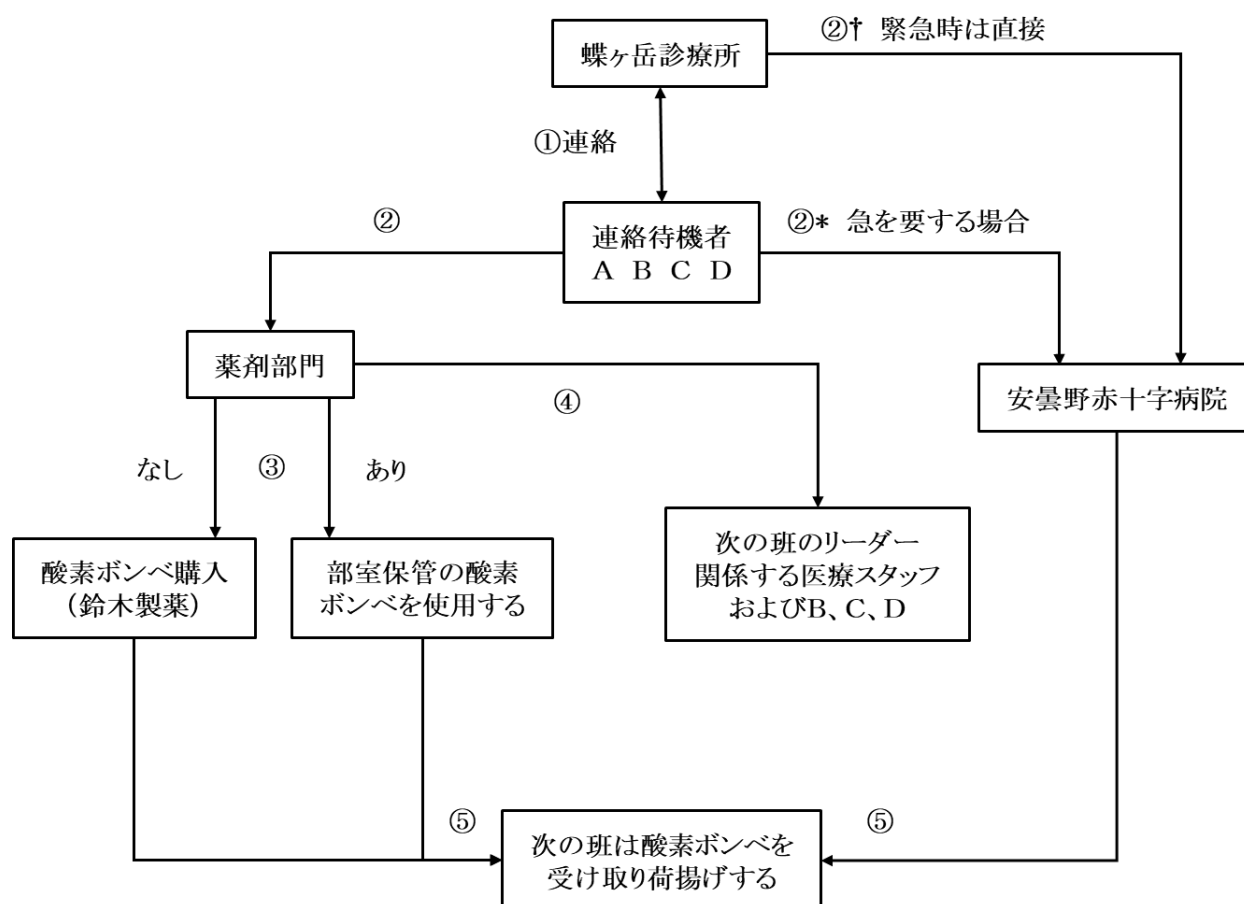
②「酸素ボンベ不足への対応」の改定

2016 年度報告書に掲載したものから 2017 年度版として一部変更した。

【変更点】

フローチャート内の③について、2016 年度報告書に載せたものでは鈴木製薬からボンベのレンタルを行うことになっていた。しかし本診療班が所有している容量の酸素ボンベはレンタルを行っている会社がないことが分かった。そのため新規購入したボンベ F を部室保管とし、酸素不足時に素早く対応できるようにした。また部室保管のボンベが荷揚げされ部室に無い場合などはボンベの新規購入を検討する。

○酸素ボンベ不足への対応



連絡の流れ

継続的な酸素投与が必要な際に、診療所にある酸素ボンベが 5 本のうち 2 本の残量がゼロになった。

①診療所から連絡待機者(※)に電話または Skype を用いて連絡。

(※) 診療所から薬剤部門長(A)、運営委員長(B)、診療班代表(C)、診療所長(D)に連絡する。

②第一報を受けたものが薬剤部門の部にその旨を伝達する。

②* ②†ただし酸素ボンベの名古屋から安曇野への輸送には時間がかかるため、それが間に合わない場合は連絡待機者(②*)あるいは診療所から直接(②†)安曇野赤十字病院総務課に電話し酸素ボンベを借りる手配をする。時間外の場合は事務当直にその旨を伝える。

安曇野赤十字病院 代表 TEL:0263-72-3170

③薬剤部門は部室保管の酸素ボンベがある場合は、それを使用する。また、部室保管の酸素ボンベがない場合は、鈴木製薬(TEL:052-881-2745/1434:留守番電話による 24 時間対応)より酸素ボンベを購入する。目安として、購入の連絡をしてから在庫がある場合は 1~2 週間、在庫がない場合は、1~2 ヶ月かかる。

④薬剤部門が、次に出発する班のリーダー(ポーターの場合は最上級生)、関係する医療スタッフに連絡する。

⑤次の班が酸素ボンベを受けとり診療所へ荷揚げする。

(安曇野赤十字病院より酸素ボンベを借りる場合は、診療所から連絡がきた時点で安曇野にいる学生、安曇野にいない学生がいけない場合は診療所の学生が下山して荷揚げする、ポーターの場合は 1 本のみ荷揚げでもよい。その場合その次の班がもう 1 本を荷揚げする)

薬剤部門は診療班所有の酸素ボンベが荷下げされ次第充填を手配し速やかに荷揚げできるように進める。

★安曇野赤十字病院等への対応では、班員の安全を第一に考え天候不順、班員の体調不良などがある場合は無理をしないようにする。

[2018 年度に行ったこと]

①ボンベ新規購入

酸素ボンベ D について、2017 年度閉所後にメンテナンスに出したところ使用期限の製造後 15 年が経過していたため鈴木製薬により回収となった。所有するボンベが 1 本減ることとなるため新規購入した。

②メンテナンス時期の調整

2017 年度同様、他のボンベについて調整を行う。

〈酸素ボンベメンテナンス状況〉2018 年 9 月時点

	前回メンテナンス 時期	次回メンテナンス 時期	残量	2018 年 9 月時点での 保管場所
A	2016 年 8 月	2019 年 7 月 31 日	充填後満タン	鈴木製薬にて充填中
B	2016 年 8 月	2019 年 7 月 31 日	224L	診療所
C	2014 年 8 月	2021 年 8 月 31 日	メンテナンス後満タン	メンテナンス中
D	2018 年 5 月購入	2021 年 4 月 30 日	満タン	診療所
E	2017 年 10 月	2020 年 9 月 30 日	満タン	診療所
F	2017 年 6 月購入	2020 年 5 月 31 日	満タン	診療所

[2019 年度に行ったこと]

①ボンベの荷下げ基準の設定

山頂でボンベの残量が少なくなってきた場合にどの段階で荷下げするのか基準を設けるべきということで、残量が 100L を切ったら荷下げを検討すると決定した。

②メンテナンス時期の調整

2018 年度同様、他のボンベについて調整を行う。

〈酸素ボンベメンテナンス状況〉2019 年 9 月時点

	前回メンテナンス 時期	次回メンテナンス 時期	残量	2019 年 9 月時点での 保管場所
A	2016 年 8 月	2019 年 7 月 31 日	満タン	診療所
B	メンテナンス中	未定	89.6L	メンテナンス予定
C	2014 年 8 月	2021 年 8 月 31 日	満タン	診療所
D	2018 年 5 月購入	2021 年 4 月 30 日	満タン	診療所
E	2017 年 10 月	2020 年 9 月 30 日	満タン	診療所
F	2017 年 6 月購入	2020 年 5 月 31 日	満タン	診療所

[2020 年度に行ったこと]

新型コロナウイルス対応のため、活動できなかった。

[2021 年度に行ったこと]

新型コロナウイルス対応のため、活動できなかった。

第 41 回日本登山医学会学術集会への参加報告

酒々井眞澄(代表)、薊隆文(診療所長)、坪井謙(運営委員長)

2021 年 5 月 29 日(土)から 30 日(日)までの日程で昨年同様にオンライン開催となった。また、6 月 1 日(火)から 30 日(水)はオンデマンド発表期間であった。薊と坪井は 5 月 3 日に行われた日本登山医学会山岳診療委員会に参加し、2021 年のコロナ禍における山岳医療の状況について情報収集を行った。委員会での報告によると、国内 26 か所の山岳診療所の内、22 か所からアンケートの回答を得た。2020 年は、通常開所 1 か所、学生参加のない限定的開所 11 か所、開所せず 10 か所であった。2021 年の動向は、委員会参加の診療所からのコメントを基にまとめると、開所 3 か所、開所予定 6 か所、開所せず 3 か所、不明 9 か所であった。2021 年の学術集会のテーマは「山岳救急医療の意義と挑戦」であったが、いくつかの講演は開催中止となった。酒々井は研究発表を視聴し山岳医療に関する情報収集を行った。

【診療活動の取材に関する合意書】

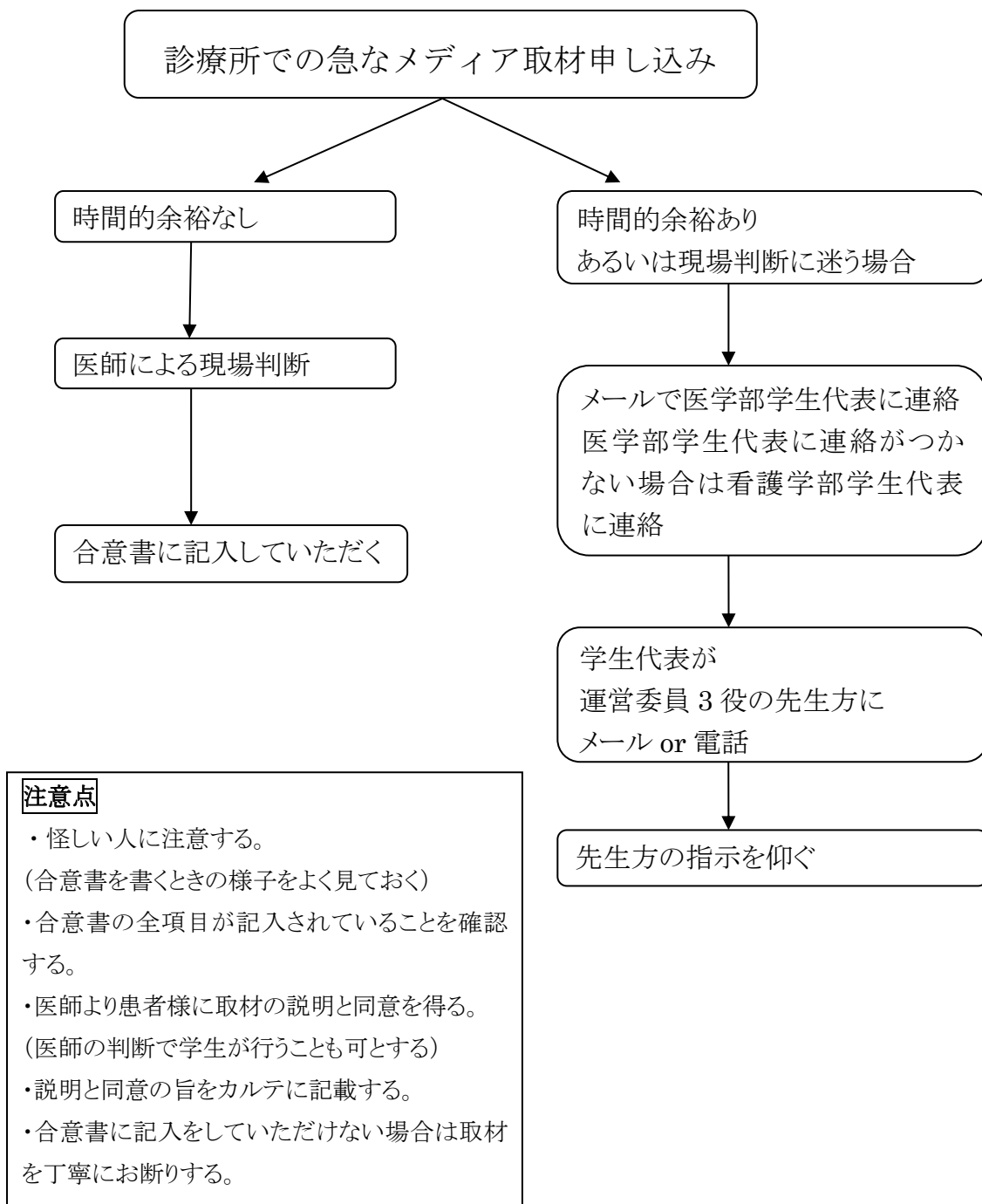
名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班代表
酒々井 眞澄 殿

- 1) 患者の診察の様子は診療情報・個人情報も多く含んでいるので、医師が患者へ説明して許可をとった上で取材します。
- 2) 医師が診療活動に支障を来すと判断したときは取材できないことを承諾します。
- 3) 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動取材するに際しては、プライバシーに関わる場合を考慮して取材対象となる人から許可を取った上で取材します。
- 4) 取材の利用については当社に限るものとします。

_____ (自署) _____ (年月日)

社名
担当者
住所
電話番号
ファックス番号
携帯電話番号
E-mail アドレス

診療所での急なメディア取材申し込みへの対応フローチャート



短時間での一時閉所チェックリスト

2021 年度学生代表 岩城俊亮(M3)

全般

- ☐ 作業の様子をビデオ・写真に撮る

情報技術

- ☐ パソコンの LAN ケーブルを抜く
- ☐ パソコンの電源を切る

自炊品

- ☐ ガスコンロからボンベを取り外す
- ☐ ボンベを別々に所定の場所に置く
- ☐ ガスコンロとボンベを自炊小屋に置いておくことをヒュッテの鈴木千恵様に伝える
- ☐ 自炊小屋・冬季小屋を掃除する
- ☐ 自炊小屋内部の写真を撮る
- ☐ 生ものは荷下げる

診療所

- ☐ 診療所内部の写真を撮る

ごみ

- ☐ 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを確実に梱包する
- ☐ 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを荷下げる

最終確認

- ☐ 班長は**自分で**自炊小屋の火の始末をチェックする
- ☐ 診療所のドアを施錠する
- ☐ ヒュッテの鈴木千恵様にかぎを返す
- ☐ 一時閉所作業完了の旨とお礼をヒュッテの鈴木千恵様に伝える
- ☐ 天候や人員などの状況を考え荷下げるをするかの最終的な判断をする(荷下げる・荷下げしない)

短時間での完全閉所チェックリスト

薬剤

- ☐ カウントせずに A 材(輸液以外)とパルスオキシメーターを梱包する
- ☐ カウントせずに A 材(輸液以外)とパルスオキシメーターを荷下げる
- ☐ 作業風景をビデオか写真に撮る

情報技術

- ☐ パソコンの LAN ケーブルを抜く
- ☐ パソコンの電源を切る

自炊品

- ☐ ガスコンロからボンベを取り外す
- ☐ ボンベを別々に所定の場所に置く
- ☐ 自炊小屋・冬季小屋を掃除する
- ☐ 自炊小屋の越冬物品を写真に撮る
- ☐ 冷蔵庫の中を空にする
- ☐ ガスコンロとボンベの越冬をヒュッテの鈴木千恵様に伝える
- ☐ おひつ、生ごみ処理機、布団、いすなどヒュッテからの借り物を返す
- ☐ もらった食材リストをヒュッテの鈴木千恵様に渡す
- ☐ 食事人数表をヒュッテの鈴木千恵様に渡す

診療所

- ☐ 寄付金、公衆電話用のコイン、領収書を回収する
- ☐ 寄付金、公衆電話用のコイン、領収書を荷下げる
- ☐ カルテを回収する
- ☐ カルテを荷下げる
- ☐ パソコン、プロジェクター、名札を回収する
- ☐ パソコン、プロジェクター、名札を荷下げる
- ☐ 診療所の看板 2 個、掲示物を外す
- ☐ 診療所の看板 2 個、掲示物を所定の場所に置く
- ☐ 閉所看板をドアの外側に掛ける
- ☐ ビニールシートで窓を覆う
- ☐ 心電図計、ベッドにビニールシートを被せる

- ☐ AED の動作確認をする

ごみ

- ☐ 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを確実に梱包する
- ☐ 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを荷下げる

最終確認

- ☐ 班長は**自分で**自炊小屋の火の始末をチェックする
- ☐ 診療所のドアを施錠する
- ☐ ヒュッテの鈴木千恵様にかぎを返す
- ☐ 閉所作業完了の旨とお礼をヒュッテの鈴木千恵様に伝える
- ☐ 天候や人員などの状況を考え荷下げるをするかの最終的な判断をする(荷下げる・荷下げるしない)

2021 年度 寄付者御芳名

誠にありがとうございました。

安藤幸穂 酒々井眞澄 西尾政幸

(敬称略五十音順)

以下の団体からのご協力に心より感謝申し上げます。

名古屋市立大学

名古屋市立大学医学部同窓会瑞友会

(敬称略五十音順)

【2021年度名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班活動報告書の発送断念について】

例年は年末に報告書部門の担当学生が部室に集まり、手分けして発送作業を行ってきました。しかし、2021年についても新型コロナウイルス感染拡大により、例年のような発送作業を行うことができませんでした。最終的に、報告書(冊子)の発送を断念致しました。

なお、2021年度報告書は名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班HPにてPDFファイルが公開されます。ご寄付いただいたご支援の皆様や診療班員におかれましては、HPから適宜ご覧いただければ幸いです。

ご理解の程、何卒宜しくお願い致します。

報告書部門長 医学部3年 高木智之

記事については、「名古屋市立大学 蝶ヶ岳ボランティア
診療所 2021年度報告書」(冊子)をご参照ください

記事については、「名古屋市立大学 蝶ヶ岳ボランティア
診療所 **2021**年度報告書」(冊子)をご参照ください

新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について

医学部学生代表 岩城俊亮(M3)

新型コロナウイルス感染症の状況や本学の規程に鑑み、2020 年、2021 年について診療所は開所しないことを決定しました。また、例年は 5 月に御在所岳（1212m）、竜ヶ岳（1099m）、入道ヶ岳（906m）に 1、2 年生も参加し練習登山を行っていますが、これも中止しています。安全な活動は私たちが最優先する事項であり、このような状況により活動継続にあたって班員（学生、医療スタッフ）の安全確保や診療所内での発熱など新型コロナウイルスの感染を疑う場面で困難が生じることを懸念しています。しかし、私たちの診療活動は社会的にも意義のあるものであるとの認識から、2021 年も昨年同様にヒュッテスタッフからの医療に関するメール相談を受け付ける体制を取りました。山岳診療活動は断念しましたが、ウェブ運営委員会やウェブあるいは対面での勉強会（大学が提示する感染対策ガイドラインを遵守して実施）、第 41 回日本登山医学会へのウェブ参加、猪熊隆之氏（ヤマテン代表取締役、中央大学山岳部監督）による山岳気象に関するウェブ教育講演会を開催しました。

2022 年 7 月の開所に向けて様々な課題の検討や解決に取り組んでいます。例えば、発熱者対応マニュアルなどの準備、山岳診療所での活動が未経験である現在の 1、2 年生への技術指導・知識の習得や診療班運営の引き継ぎなどがあります。全国には約 20 か所の山岳診療所がありますが、他の診療所での具体的な取り組み内容（予防接種の有無の確認、問診や動線の工夫、部屋の個室化など）を参考にしたいと考えています。

2021 年度報告書係

医学部 6 年 畑中景 医学部 5 年 梅村祐美 医学部 5 年 中野聖也
医学部 4 年 土屋佑太 医学部 4 年 古川省三 医学部 4 年 横井里佳
医学部 3 年 笠井翔太 医学部 3 年 高木智之 医学部 3 年 武市和也
医学部 2 年 中川楓美恵

連絡先を変更された班員は下記まで連絡をお願い致します。

chogatake-staff@umin.ac.jp

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班にご寄付いただき誠にありがとうございました。
2021年も新型コロナウイルスの影響で診療所での活動中止を余儀なくされました。
皆様からのご寄付は、来年度以降の活動費に充てさせていただければと考えています。
これからも皆様のご支援にお応えできますよう活動を続けていきます。引き続きのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

2022 年 3 月

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

寄付金受付窓口

郵便振込 口座番号 00830-3-59137

加入者名 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所 2020 年度報告書

2022 年 3 月 第 1 刷発行

発行者 酒々井眞澄

発行所 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1 番地

電話:(052)853-8993

URL:<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyogatake.htm>

印刷 名古屋市立大学生協川澄店

Copyright(c)2021 by Mt.Chogatake Volunteers' Clinic (650 部)

